

出会った人とのつながりを大切に 活動の幅を広げていく、デイサービスの管理者

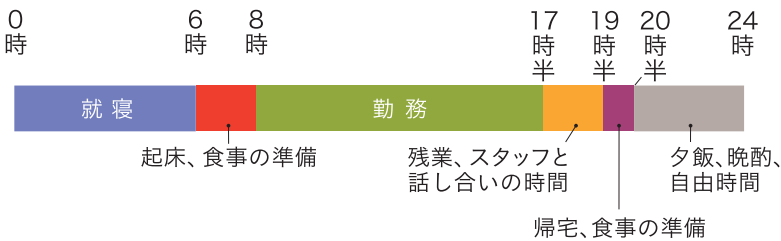
本野光代さん / 46歳

デイサービス はなことばさくら名島 管理者・相談員

キャリア

19歳～	大学で福祉を学ぶ
22歳～	病院のソーシャルワーカーとして勤める
28歳頃	結婚を機に専業主婦となる
39歳頃	デイサービスでパートとして勤務をはじめ
42歳頃	デイサービスの管理者に就任

ある日の1日



- おばあちゃんの介護を通して、介護の大変さや楽しさを知る
- 自宅に退院すると元気になる患者さんを見て、在宅支援に魅力を感じる
- “いちやりばちょーでー”の精神で、いろんな人とのつながりを大切に



福祉の仕事をする前は何をしていた？

— 小学生の頃に感じた、
介護の大変さと楽しさ

小学生の時から、おばあちゃんの介護をしていました。半身麻痺だったので、排せつの片づけや、お風呂のお手伝いをしていました。当時は小学生だったので、「なんで私が？」と思ったこともありましたが、でも、楽しいこともありました。おばあちゃんは、利き腕じゃない方の腕でお箸を持つ練習をしたり、とても前向きな人でした。車いすを押しながら一緒に散歩をしたり、介護されているけど、楽しそうにしている姿も見ていました。私も、頼りにされているのが嫌ではなかったんだと思います。

高校時代、プログラマーを目指して一度は情報処理の勉強をしましたが、結局、人に接する仕事の方が面白いと思い、福祉系の大学に進みました。

— 入院患者さんが教えてくれた、
住み慣れた家に帰る意味

大学時代は、相談援助の勉強をしていたので、卒業後は病院のソーシャルワーカーになりました。患者さんの相談援助がメインの仕事ですが、入院・退院のコントローラーでもあります。こんな状態で退院して、本当に生活できるの？と疑問を感じることもありましたが、でも、患者さんは、自宅に帰ると元気になるんです。あんなに心配していたのに、顔つきも変わって、自分で動くようになる。それが不思議に感じました。なので、次働くときは、在宅の支援をしたいと思ったんです。

結婚して退職しましたが、義父の死を機に、限りある命なのだから、私ももう一度社会に出て役割を見つけたいと思い、デイサービスで働き始めました。

❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 地域の人にとっても、居場所となるデイサービス



うちのデイサービスは、利用者さんの9割が認知症の方です。毎日状態が違って、毎日「はじめまして。」から始まる人もいます。大変なんですけど、毎日が新鮮で、ワクワク感がありますね。

また、地域密着型のデイサービスなので、地域に開かれたデイサービスでないといけません。自治会長をはじめ、地域で暮らす皆さんともよく話をします。2か月に1回、デイサービスがお休みの日は事業所を地域に開放して、自由に使ってもらっています。音楽会やフラワーアレンジメント教室など、地域の方が企画されています。

— 昨年の9月からは、Eastカフェも開催しています。これは、介護に携わる方や興味がある方、専門職でも一般の方でも、自由に参加できるカフェです。コロナ禍でも、オンラインで開催しています。私は沖縄の出身なのですが、「いちゃりばちょーでー」という言葉があります。一度会ったらみな兄弟、という意味です。その精神で、いろんな人とつながっています。

❗ 仕事以外はどんな生活をしている？

— 利用者さんが教えてくれた山登りを実践中

お休みの日は、映画をよく観ています。昔から好きでよく見ていたのですが、老化と共に記憶がなくなってきて(笑) 動画配信サービスを使って、昔の映画を見なおしています。特に洋画が好きですね。でも、映画を観始めると何もできなくなってしまうので、2週間に1回くらいの楽しみです。あとは、平日、家族が寝静まって自分の時間が取れたときに、お酒を飲みながら観たりしています。

最近の趣味は、山登りです。利用者さんに山が好きな人がいるのですが、その方が山の登り方を教えてくださいました。一度試してみようと思って、初日の出を見に登ってからハマってしまいました。東区の三日月山からはじめて、次は息子と一緒に宝満山に行こうと話しています。



取材を終えて

デイサービスを地域に開放したり、オンラインで語り合うカフェを開催したりと、介護の仕事の幅広さを教えて下さった本野さん。世代や分野を超えて活動の幅を広げていかれる姿が印象的でした。